ACCESS

取扱説明書

シルドLX4W Roof

EVM23

シルド4W Roof-L

EVM23-01

ご使用の前には必ず取扱説明書をよくお読みください。

2019/09/02

販売会社

製造元　**株式会社アクセス**
〒400-0048 山梨県甲府市貢川本町 5-15

お問合せ
フリーダイヤル 0800-800-5224
平日 9:00 ～ 18:00 までにお問合せください。

はじめに

お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 警 告 取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注 意 取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

ⓘ 正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

「安全運転のために」の項目を必ずお読みいただき、理解してから運転してください。

車の受け取りの際には、お買い上げいただいた販売店から「取扱説明書」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。
・車の正しい取り扱い方法
・日常点検、定期点検整備
・保証内容および保証期間
※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

各部の取り扱いと操作 …… 1-1
各部の名称 …… 1-1
メインブレーカー …… 1-3
クラッチレバー …… 1-3
メインスイッチ …… 1-3
右ハンドル部スイッチ …… 1-4
左ハンドル部スイッチ …… 1-4
メーターパネル …… 1-5
車両情報 …… 1-5

バッテリーの充電 …… 2-1
鉛シリコン電池の充電 …… 2-1
リチウム電池の充電 …… 2-2

バッテリーの取り扱いと知識 …… 3-1
安全な充電とバッテリー
取り扱いの注意 …… 3-1
充電時間 …… 3-2
バッテリーの知識 …… 3-3

点検整備 …… 4-1
点検整備の実施 …… 4-1
低速、加速の状態の点検 …… 4-2
モーター異音の点検 …… 4-2
タイヤの点検 …… 4-3
ブレーキの遊び、きき具合の点検 … 4-4
ブレーキパッドの摩耗点検 …… 4-5
車体各部の給油脂状態の点検 …… 4-5
運行において異常が認められた
箇所の点検 …… 4-5
灯火装置および方向指示灯の点検 … 4-5
充電器のコードと各プラグの点検 … 4-5
こんなときは …… 4-6

お車の手入れ …… 5-1
洗車 …… 5-1
保管のしかた …… 5-2

安全運転のために、車両の特徴 …… 6-1
安全運転のために …… 6-1
車両の特徴 …… 6-3

製品仕様 …… 7-1

各部の取り扱いと操作

各部の名称

各部の取り扱いと操作

メインブレーカー
トランク
ACCESS
付属のキー（大）を使用
シートロック

方向指示器スイッチ
ライト切替えスイッチ
メーターパネル
フロント
ブレーキレバー
リヤブレーキレバー
クラクション
スイッチ
スロットルグリップ
前進／後進
切替えスイッチ
パッシング
スイッチ
ヘッドライト上下
切替えスイッチ
最高速度
切替えスイッチ
キルスイッチ
ハザードスイッチ
荷物掛けフック
メインスイッチ
付属のキー（大）を使用

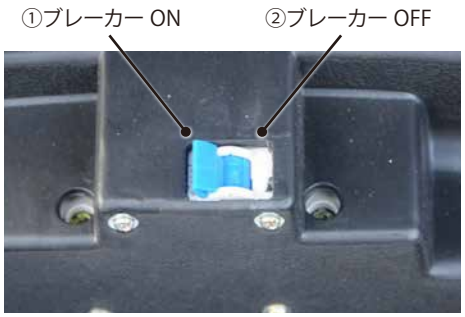
各部の取り扱いと操作

メインブレーカー

シート下のトランク内にメインブレーカーがあります。

①ブレーカー ON：バッテリーから電源が供給されます。乗車時および充電時に、このポジションにします。

②ブレーカー OFF：バッテリーからの電源を遮断します。乗車しないときはOFFにすると、バッテリーの消費が抑えられます。



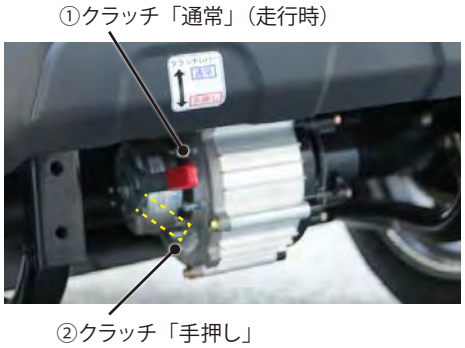
クラッチレバー

後輪の間にクラッチレバーがあります。

①通常：走行時はこのポジションにします。（手押しで動かせなくなります）

②手押し：手押しで動かすとき、このポジションにします。（走行できなくなります）

※駐車するときはレバーを「通常」にして、車が不用意に動かないようにしてください。



メインスイッチ

メインスイッチには3つのポジションがあります。

①電源 OFF：すべての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

②電源 ON：すべての電気回路に電源が供給されます。キーを抜くことはできません。

③ハンドルロック：ハンドルがロックされます。キーを抜くことができます。

※付属のキー（大）を使用します。

各部の取り扱いと操作

右ハンドル部スイッチ

①ライト切替えスイッチ：ライト OFF／スモール／ヘッドライトを切替えます。

②キルスイッチ：緊急時などにモーターを停止させます。押すごとにモーター停止／作動を切替えます。

※キルスイッチは緊急時以外は使用しないでください。

③パッシングスイッチ：押している間、上向きヘッドライトが点灯します。

④最高速度切替えスイッチ：最高速度を3段階に切替えます。

1：低速、2：中速、3：高速

※電流量を制限して低速・中速にしているので、低速にしていると緩やかな坂も登れないときがあります。

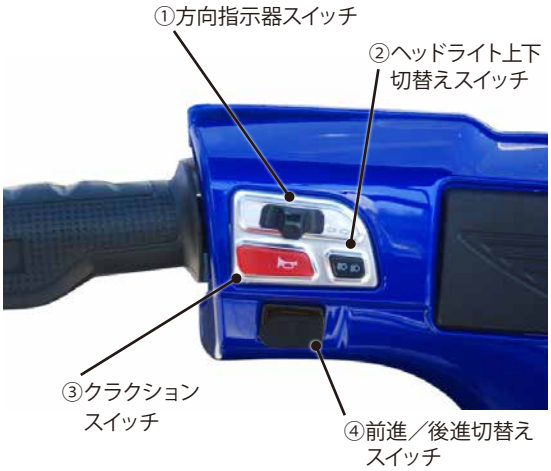
左ハンドル部スイッチ

①方向指示器スイッチ：スイッチを左にスライドすると左の、右にスライドすると右の方向指示器が点滅します。スイッチを中央にすると消灯します。

②ヘッドライト上下切替えスイッチ：押すごとにヘッドライトの上向き／下向きを切替えます。

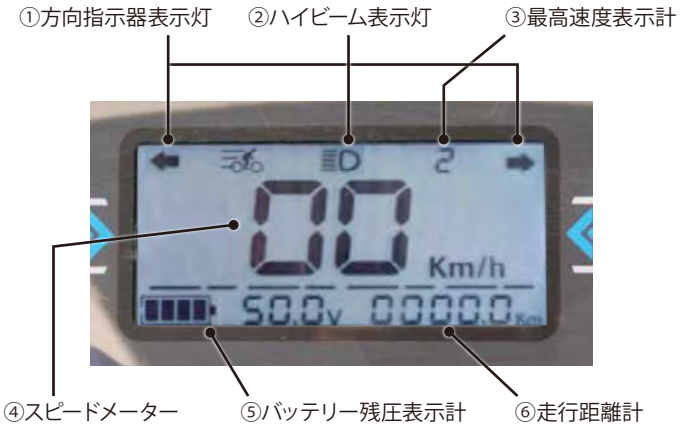
③クラクションスイッチ：クラクションが鳴ります。

④前進／後進切替えスイッチ：押すごとに前進と後進を切り替えます。



各部の取り扱いと操作

メーターパネル



①方向指示器表示灯：方向指示器動作時に点滅します。

②ハイビーム表示灯：ヘッドライトが上向きのとき点灯します。

③最高速度表示計：選択した最高速度を表示します。（１：低速、２：中速、３：高速）

④スピードメーター：現在の走行速度 (km/h) を表示します。

⑤バッテリー残圧表示計：バッテリー残圧を表示します。

⑥走行距離計：総走行距離を表示します。

上記以外の表示は警告灯となります。表示が出た場合は、すみやかに販売店等にご相談ください。

車両情報

車台番号

ナンバー登録、自賠責保険の加入などに使用します。

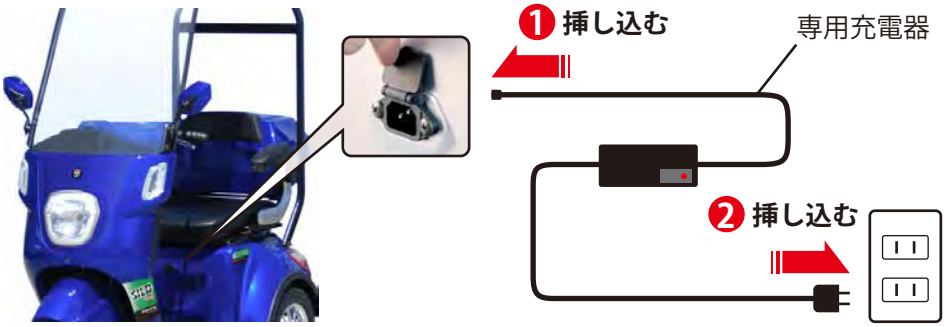
（ナンバー登録や自賠責保険加入について、詳しくはお買い求めの販売店にご相談ください）

バッテリーの充電

バッテリーを安全に充電し、長持ちさせるために、「バッテリーの取り扱いと知識」の項目もあわせてお読みください。

鉛シリコン電池の充電（シルド Roof、シルド LX4W Roof）

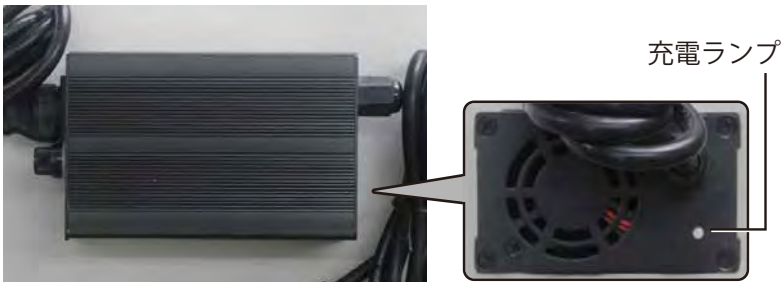
充電の開始



1. 座席前方下の電源ソケットカバーを開けます。
2. 車体の電源ソケットに専用充電器を接続します。
3. 専用充電器のプラグを、家庭用コンセント (100V) に差し込むと、自動的に充電が始まります。

充電の進行状態の表示

充電中は充電状態を専用充電器の充電ランプに表示します。

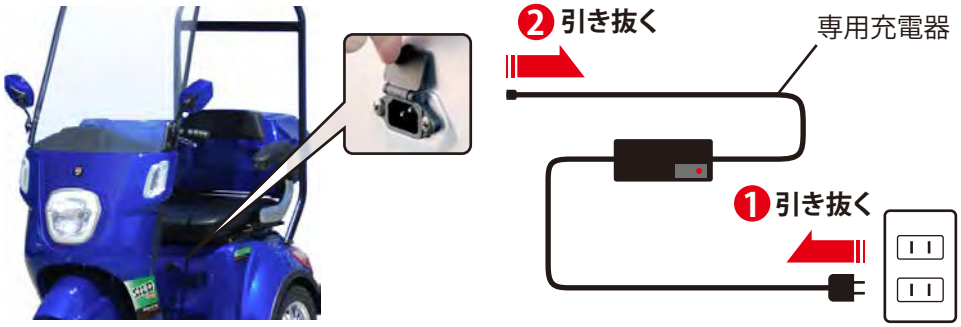


充電中
赤で点灯
充電完了 または接続なし
緑で点灯

バッテリーの充電

充電の終了

1. 充電が終了したら、充電器の電源プラグを家庭用コンセントから抜きます。
2. 車体の電源ソケットから充電器を取り外します。
3. 電源ソケットカバーが閉まることを確認します。



リチウム電池の充電（シルド Roof-L、シルド４W Roof-L）

充電の開始

A. 車体に充電器を接続して充電する場合

1. 座席前方下の電源ソケットカバーを開けます。
2. 車体の電源ソケットに専用充電器を接続します。
3. 専用充電器のプラグを家庭用コンセント (100V) に差し込むと、自動的に充電が始まります。

バッテリーの充電

B. バッテリーを取り外して充電する場合

1. トランクを開け、ブレーカーを OFF にします。続いてバッテリー収納ふたを外します。

2. バッテリーから電源ソケットを抜きます。

3. バッテリーを斜め上に引き上げて取り出します。

4. 専用充電器をバッテリーに接続します。

5. 専用充電器のプラグを家庭用コンセント (100V) に差し込むと、自動的に充電が始まります。

充電の進行状態の表示

充電中は充電状態を専用充電器の充電ランプに表示します。

充電中	充電完了
LED1　LED2 ● ● LED1, LED2 が赤で点灯	LED1　LED2 ● ● LED1 が赤で点灯、LED2 が緑で点灯

充電の終了

A. 車体に充電器を接続して充電する場合

1. 充電が終了したら、充電器の電源プラグを家庭用コンセントから抜きます。
2. 車体の電源ソケットから充電器を取り外します。
3. 電源ソケットカバーが閉まることを確認します。

B. バッテリーを取り外して充電する場合

1. 充電が終了したら、充電器の電源プラグを家庭用コンセントから抜きます。
2. バッテリーから充電器を取り外します。
3. 取り外したときと逆の手順で、バッテリーを取り付け、電源ソケットを接続します。

警 告

電源ソケットは、しっかり奥まで差し込んでください。

走行中は発進、登坂、加速の際に大電流が流れるので、接続が不良だと火災や故障の原因となり、大変危険です。

4. バッテリー収納ふたを取り付け、ブレーカーを ON にします。

バッテリーの取り扱いと知識

各車両の取扱説明書に従って、正しい手順で充電してください。

安全な充電とバッテリー取り扱いの注意

✕ 充電に適さない場所、充電方法

- 雨や水などが当たる場所（感電や発熱・発火につながります）
- 充電コードやプラグに変形や傷つきがあるとき（感電や発熱・発火につながります）
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近く（バッテリーの劣化につながります）
- 長距離を走行した直後（バッテリーの劣化につながります）

◎ 充電に適した場所、充電方法

- 雨や直射日光が当たらない、風通しがよく涼しい場所
  （最適な環境温度：15 ～25℃）

⚠ 警 告

ご使用にならないときは、電源プラグを家庭用コンセントにつないだままにしないでください。
ホコリや異物の蓄積が感電、発熱、発火の原因となります。

また、落雷などによる故障のおそれがあります。

ご使用にならないときは、安全のためコンセントから電源プラグを抜いてください。

バッテリーの取り扱いと知識

警 告

・バッテリーを分解、加工、改造しないでください。
・異なった種類のバッテリーと接続しないでください。
・バッテリーを他の用途に使用しないでください。
・バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
・故障したバッテリーは使用しないでください。その他の部品の故障の原因となります。
・バッテリーのコネクターに針金などを入れてショートさせないでください。感電や故障、発熱・発火につながります。

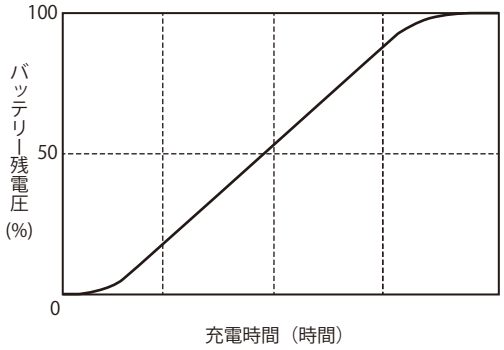
警 告

・電源プラグに、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着しないようにしてください。

・幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。
・ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。

充電時間

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残電圧・外気温により異なります。



充電過程のイメージ

各車両の専用充電器は、バッテリーに負担をかけないように、バッテリー残電圧に従い電流を制御して充電を行います。

バッテリー残電圧	充電イメージ
0 ～ 20%	ゆっくり
20 ～ 80%	最大
80 ～ 100%	ゆっくり

バッテリーの取り扱いと知識

バッテリーの知識

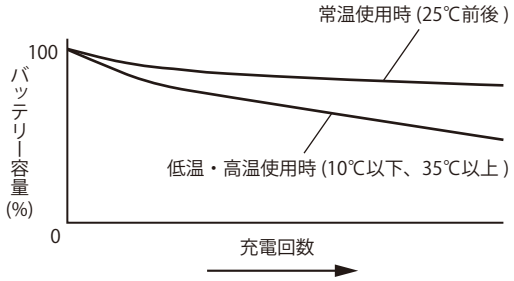
外気温による一時的な性能低下について

低温時は常温時に比べて、一充電あたりの走行距離が短くなり、また充電時間が長くなります。

これは、バッテリーの放電容量が低温時には低下する性質のためであり、故障ではありません。

バッテリーの劣化について

バッテリー劣化のイメージ



・使用年月や使用条件により徐々に放電容量が低下します。

・極端に高温または低温の場所で車を保管すると、放電容量が低下することがあります。

注 意

バッテリーは、以下の状態で放置すると劣化が進みます。

・鉛酸バッテリー（シリコンバッテリー）…… ３０%以上放電した状態

・リチウムバッテリー …… 残量 50% 以上 または 20% 以下の状態

バッテリーの残電圧が極端に低くなるまで放電してしまうと、充電ができなくなり、バッテリーが使用できなくなります。

バッテリーの取り扱いと知識

◎ バッテリーを長持ちさせるために

- 乗ったらすぐに充電することを心がけてください。
  （毎回の使用後、ただちに充電することをおすすめいたします）
- 各車両に搭載されているバッテリー（鉛シリコンシールド電池、リチウム電池）は、使い切らずに追加充電しても、劣化はいたしません。

バッテリーの保管

注 意

・長期間保管後に使用するときは、使用の前に充電してください。

・使用しなくても徐々に放電し、バッテリー残電圧が減っていきます。月に一度は、バッテリー種別に適した追加充電を行ってください。

鉛シリコンシールド電池の保管について

注 意

鉛シリコンシールド電池を長期間保管するときは、バッテリー残電圧 100%（満充電）で、15℃～25℃の場所で保管するよう心がけてください。

リチウム電池の保管について

注 意

リチウム電池を長期間保管するときは、バッテリー残電圧 30 ～70% 程度で、15℃～25℃の場所で保管するよう心がけてください。

点検整備

点検整備の実施

日常点検

日常の車の使用状況に応じて、適時実施してください。

ブレーキ	・ブレーキレバーを握ったとき、握りしろが残っていること。 ブレーキの効きが充分であること。
タイヤ	・タイヤの空気圧が適当であること。 ・亀裂、損傷がないこと。 ・異常な摩耗がないこと。 ・溝の深さが充分あること。
モーター	・モーターに異音がないこと。 ・低速、加速の状態が適当であること。
灯火装置および方向指示灯	・点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	・当該箇所に異常がないこと。

定期点検整備

車を使用する人が６ヶ月に一度行う点検整備です。法令により義務づけられています。

⚠ 警 告

・点検整備を怠ると重大な事故やケガ､トラブルの原因となります。必ず実施してください。

・安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。

・点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

≫点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。

≫走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。

≫走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

≫異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。

低速、加速の状態の点検

スロットルグリップ

・メインスイッチを OFF にした状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。

・スロットルグリップまわりに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。

警 告

スロットルグリップの作動に異常があるときは、早めに販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

注 意

スロットルグリップは電気部品です。強い力で回したり、衝撃を加えると内部の電子部品が故障します。注意してください。

走行による点検

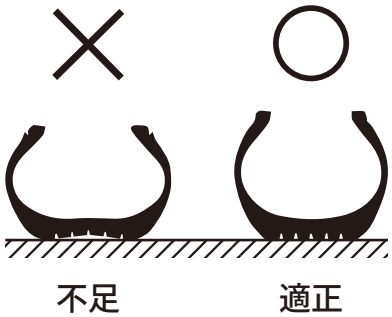
1. 左手でリアブレーキレバーを握ります。
2. メインスイッチを ON にします。
3. ブレーキレバーを離します。
4. スロットルグリップを徐々に回して加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき異常を感じたら、販売店で点検・整備を受けてください。

モーター異音の点検

モーターまわりから異音がしないかを点検します。

タイヤの点検

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。

たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

・タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも１か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

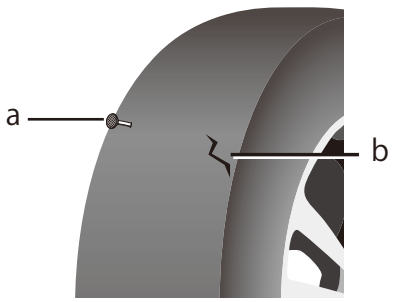
・空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。



a. 異物（釘、石など）

b. 亀裂、損傷

各車両ごとに指定されたサイズのタイヤを使用してください。

警 告

・タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。

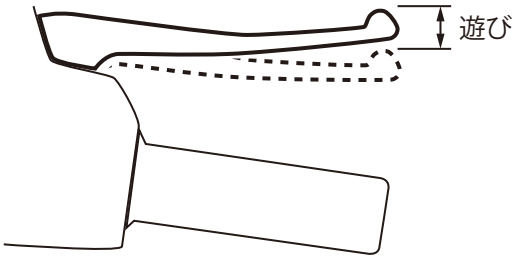
・過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。

・タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキの遊び、きき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



ブレーキレバーの遊び
10.0 ～ 20.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、調整を依頼してください。

警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

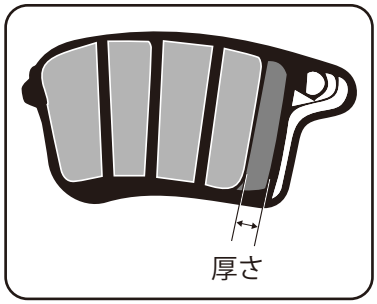
乾いた路面を走行し、ブレーキを作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキパッドの摩耗点検

ブレーキパッドの厚さが新品時の 1/2 以下になると、ブレーキパッドの使用限度です。販売店で交換・整備を受けてください。

（イラストは実際の形状とは異なります）



車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、販売店で点検・整備を受けてください。

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

灯火装置および方向指示灯の点検

メインスイッチを ON にします。

・ライトスイッチを ON にし、ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き、下向きに切り替わるかも点検します。

・ブレーキレバーを操作し、ブレーキランプが点灯するかを点検します。

・方向指示器スイッチを操作し、左および右の方向指示灯が、前後同時に点滅するかを点検します。

・レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

充電器のコードと各プラグの点検

・コードおよび各プラグに亀裂や割れ、変形などの損傷がないことを点検し、異常がある場合は充電操作を絶対に行わず、販売店に整備を依頼してください。

・コードおよび各プラグに汚れや異物の付着がないことを点検し、付着している場合は乾いた布でふき取ってください。

点検整備

警 告

・電源プラグをコンセントに差し込んだ状態で点検・整備をしないでください。感電やショートのおそれがあります。

・充電コードや各プラグが損傷、変形している場合は、必ず新品に交換してください。感電やショートによる火災のおそれがあります。

こんなときは

こんなときは、販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

電源が入らない（液晶パネルに何も表示されない）ときは？

1. メインブレーカーが ON になっていますか？
→メインブレーカーを ON にしてください。

2. バッテリー残量はありますか？
→バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認しても電源が入らないときは・・・・
販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

1. メインスイッチが ON になっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？

以上のことを確認しても、ランプ類が点灯しないときは・・・・
ランプの球切れが考えられます。各車両で指定された規格に合わせて、同じものと交換してください。

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

点検整備

充電器を接続しても充電できないときは？

メインブレーカーが ON になっていますか？
→メインブレーカーを ON にしてください。

走行中にモーターが止まったときは？

バッテリー残量はありますか？
→バッテリーメーターでバッテリー残量を確認してください。
バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認しても、モーターが回らないときは・・・・
販売店で点検・整備を受けてください。

メインスイッチが ON のときに各部が動作しなくなったときは？

1. バッテリー残量はありますか？
→バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

2. キルスイッチの設置がある車両の場合、「入」になっていますか？
→キルスイッチが「切」になっていたら、「入」にしてください。

以上のことを確認してから再度メインスイッチを ON にしてください。
再度メインスイッチを ON にしても動作しないときは、販売店で点検・整備を受けてください。

充電器から異臭、煙がでるときは？

コンセントから電源プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。販売店で点検・整備を受けてください。

1 回の充電で走れる距離が著しく短くなったときは？

バッテリーの寿命です。
販売店でバッテリーを交換してください。バッテリー交換は有料です。

漏電遮断器（家庭に設置されているブレーカー）が作動して充電ができないときは？

充電操作を止めて、販売店で点検・整備を受けてください。

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください

注 意

・マット塗装部分は、洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。

・マット塗装部分は、ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

・中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。

・洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。

・車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

⚠ 警 告

・洗車する際は、室内やトランクに水が入らないようにご注意ください。

・洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りを乾かしてください。

・コードやプラグは水で洗わないでください。汚れたときは、乾いた布でふき取ってください。

注 意

・スロットル、電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。

・ヘッドライト、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

お車の手入れ

・ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

・高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

保管のしかた

保管場所

保管場所は慎重に選びましょう。

・平坦で安定のよいところ。

・風通しがよく、湿気のないところ。

・雨つゆや直射日光が当たらないところ。

保管方法

・盗難予防のため、車から離れるときは、必ずキーをお持ちください。

（ハンドルロックがある車種は、ロックをかけてください。）

・屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

長期保管するときは

注 意

「バッテリーの取り扱いと知識」の項目に従って、バッテリーを充電してください。バッテリーは、完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなることがあります。

・保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。

長期間保管して再使用するときは

・長期間（1 か月以上）保管して再び使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）

・走行前に、各部の点検をしてください。

・充電する前に、バッテリーと充電器の点検をしてください。

安全運転のために、車両の特徴

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

安全運転のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

安全運転は正しい服装から

靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、かかとが覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

日常点検を必ず行う

事故や故障を防ぐため、日常点検を行ってください。

車の異状

異音がしたり、異臭や異常な振動があるときは、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止するだけでなく、漏電やショートなどの故障の原因となります。やむをえず、冠水した道路を走行し、水に浸ってしまったときは、販売店または整備工場でで点検・整備を受けてください。

荷物を積むときは

所定の荷物置き場以外の場所には、荷物を積まないでください。

荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険です。

安全運転のために、車両の特徴

注 意

法令により各車両の積載荷重が制限されています。荷物を積むときは、制限内の荷重にしてください。

原付1種…30kg、原付2種…60kg、軽二輪…60kg、ミニカー…30kg、トライク…60kg

押して移動するときはメインスイッチを OFF にする

車から降りて押して移動するときは、メインスイッチを OFF にしてください。

乗車定員

乗車定員を超えて人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

急激なハンドル操作はしない

急激なハンドル操作は横すべりの原因となります。絶対にしないでください。

むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

アクセサリーや交換部品は純正部品を使用する

⚠ 警 告

タイヤなどの消耗品やアクセサリーなどの部品は、販売店にご相談のうえ、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。また、保証の適用が受けられない場合があります。

車両の特徴

主な特徴について

当社の電動バイク、電動ミニカー、電動トライク、電動シニアカーには、以下の特徴があります。

・走行に必要なエネルギーは電気のみを使用し、燃料やエンジンオイルの交換を必要としません。

・高性能モーターの採用により、走行中の騒音・振動を大幅に抑えることで、快適な走行ができます。

・家庭用コンセント（AC100V）から充電することができます。

走行距離について

1 回の充電で走行できる距離は、以下のような走り方や道路状況などにより異なります。

タイヤの空気圧低下、坂道の走行頻度、坂の勾配、急発進の有無、発進・停止の回数、車載重量、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下など。

一充電あたりの走行距離は、定められた試験条件（法定速度 での定地走行テスト）のもとでの値となります。

走行時の気象、道路、整備などの諸条件により異なります。

・バッテリーの特性上、気温の変化（バッテリー温度の変化）により、走行できる距離が短くなる場合があります。

・車両の負荷（乗員の体重や荷物など）が 10kg 増加すると、走行できる距離が 5 ～ 10%短くなります。

製品仕様

シルド LX4W Roof（EVM23）/ シルド 4W Roof-L（EVM23-01）

全長 / 全幅 / 全高	1,640/680/1,680mm	
最低地上高	130mm	
車両重量	89kg	67kg
車両総重量	174kg	
乗車定員	1 名	
一充電走行距離	40km※1	
定格出力 / 最高出力	500W/600W	
最高速度	20km/h	

懸架装置	前輪：テレスコピックフォーク 後輪：ダンパー付コイルスプリング	
ブレーキ	前後輪：ドラム式+アクセル連動電磁制動装置	
タイヤ	前輪：90/70-10 後輪：3.00-10	
バッテリー	鉛シリコン電池 12V/20Ah×4 個	リチウム酸化マンガン電池 48V/20Ah×1 個

※1 平坦路無風時、乗員体重 60kg における法定速度での定速走行による。

交換パーツなど

ヘッドライト	12V 6W LED　BA20d
スモールランプ	専用 12V LED
テール/ブレーキランプ	12V 10W/5W　BAY15d + 専用 12V LED
方向指示灯（前）	専用 12V LED

方向指示灯（後）	12V 10W 橙　BA15s
ライセンス灯	専用 12V LED
ファイナルギヤオイル	80W90, 0.1L
タイヤ空気圧（冷間時）	前輪・後輪：250kPa